

回想法の一例・2月号

平成25年1月30日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
e-meil pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p www16.ocn.ne.jp/~piakaiso

前向きに暮したい



同じことを聞いても、人によってとらえ方は違うものです。「笑いのこころユーモアのセンス」岩波書店に面白い作り話が載っていました。ある企業が発展途上の地に靴の輸出を計画し、市場調査のために2人の社員を派遣した。Aさんは「まったく見込みがありません。住民は誰も靴を履いていません」と。Bさんは「無限の見込みがあります。まだ誰も靴を持っていません」と報告してきた。あなたならどちらの社員の意見を採用しますか？

超高速に高齢化社会が進むわが国の老後は、少子化が進み、頼みの年金は目減りするばかりです。100歳の双子の姉妹金さん銀さんも「老後が心配」と話していたように、老後の視界は不良でも物事を良い方に、明るい方向にとらえる「力」を鍛えて行きたいですね。

焦らず・慌てず・諦めずに、無理なく・負担なく出来ることを楽しく、笑いと・活気と・前向きな気持ちを道連れに元気に過ごしたいものです

年を重ねると・・・

楽しい時があつという間に過ぎてゆくのは常として、本によると、退屈な時までもアツという間に過ぎていくのは、「心の時間」のせいらしいと書いてありました。

子どもは、未知の行事や出来事が次から次とやってくるので、心の時は細かく刻まれます。だから、時間がゆっくり進むように感じるものだと。大人になると、心躍る出来事も減り、加齢で代謝も鈍くなり、心の時は緩慢になる。だから、実際の時の流れを早く感じてしまうそうです。

大人になることは、歴史に出会うこと。歴史に出会うことは、社会を見出すことでもある。過去を感じ直し、現在を位置づけ直し、未来を選び直し、自分がどんな歴史に折り込まれているのかを問う営みだと、社会学者佐藤健二さんは説いています。

過去をふり返り、老後に向き合い、自分の暮らし向きに向き合い、老後を、穏やかに楽しく暮せるように、人それぞれその使いよう一つで「大人時間」は、いくらでも早めることも、遅らすこともできそうです。

認知症になっても年寄りの知恵を活かして「大人時間」を在宅で自分らしく輝いて暮りたいものです

2月の予定

歴史民俗資料館

開催時間は、13時30分～15時30分

回想ガイド活動 1日(金) 5日(火)
15日(金) 19日(火)

昔の遊び体験教室 23日(土)

龍ヶ崎市役所 地下食堂

開催時間は、14時～16時

おしゃべりサロン 25日(月)